



か  
み  
さ  
ま

葵  
生  
蒼  
空



#1 充塚千佳良



2年前、小6の梅雨時  
卒業を待たずに俺は  
この街に越してきた

ガラッ

おーし、  
静かにー

席つけー

転入生を  
紹介するぞー

みっづかちから  
充塚千佳良、  
はい、あとは本人  
よろしくー

ガッガッ  
へ？

えーっと……  
充塚千佳良でえす

得意技は絵を  
描くことで、  
将来の夢は画家で  
食べてく事です





そんな感じで  
よろしく  
お願いしまあす

うっわっ  
まじウメー

なんでそんな  
描けんのー!!

あたしにも  
描いて描いて!

オレもっ

そーいや  
画家って  
いったらさー

登校拒否児  
だよ

武藤彼方  
ってやつ

そいつ親父の  
絵のモデル  
やっつてんの  
だけどさ

そーそ、体にキズが  
つくから体育なんか  
やらせんなって  
学校に怒鳴り込んで  
来たんだぜ

モンペってやつ  
だよモンペ

こえすぎー

このクラス  
画家の息子が  
いんだぜ

へー  
誰?

その画家の  
とーちゃん  
そーとー  
イッてやんの

ー……ふーん……



武藤カイ、ね  
聞いたこと  
あるよーな  
ないよーな…

うおー  
まさかと思った  
けどあった画集

どげ…

ブム…







武藤……

彼方——

どんな奴だろう

武藤って……

そして  
初めて武藤本人と  
会ったのは

卒業前の  
最後の  
雪の日だった

!





武藤彼方——

おお、充塚  
どした？

まだ残って  
たのか？

武藤だ！

！  
…



あ、俺  
日直だったから  
日誌……

ああ、  
ごくろーさん



そーいや  
充塚は  
初めてか

武藤彼方だよ  
武藤、同じクラスの  
充塚千佳良





おいおい  
充塚?

—すげー!...

画集の絵なんか  
より実物の方が  
全然美人だ...

—!...



あ、ごめん俺、  
図書室で武藤の  
とーちゃん画集  
しよっちゅう  
見ててさ


ずっと  
会いたかったから、  
すぐ武藤だっけ  
わかったんだけど




やっと  
会えたって  
のに

なんかもう  
見惚れ  
ちゃって...—





そこで俺はまた  
見惚れて意識が  
すっ飛んでしまっていた




あれから  
丸一年とら  
数か月



彼方――

武藤





あーあ、また  
会えねーかなー

まだお前に  
頼みたい事が  
あんだよ

武藤

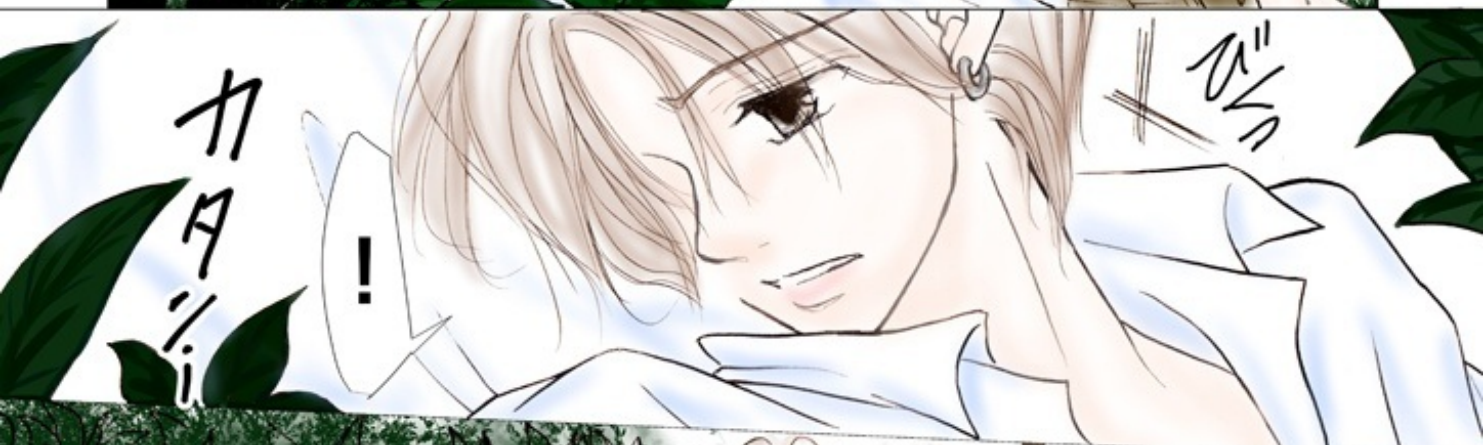
その数日後  
俺は武藤と  
再会する





# 2 武藤彼方









来な、  
遙はるか

探したか？

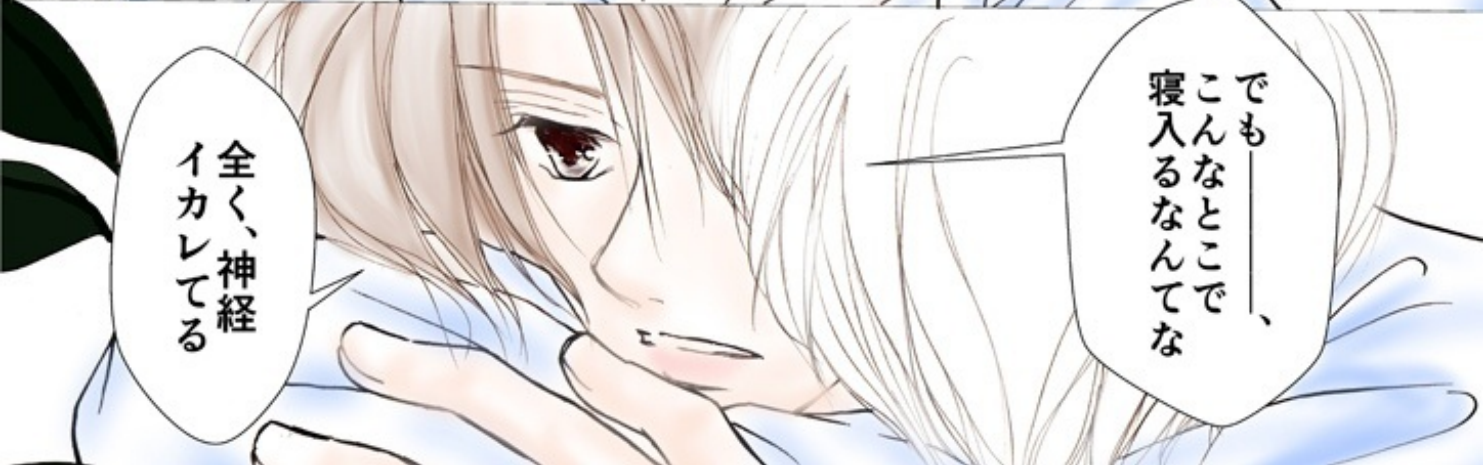
うん

悪い、  
しつちやうと  
うと



眠れないの？

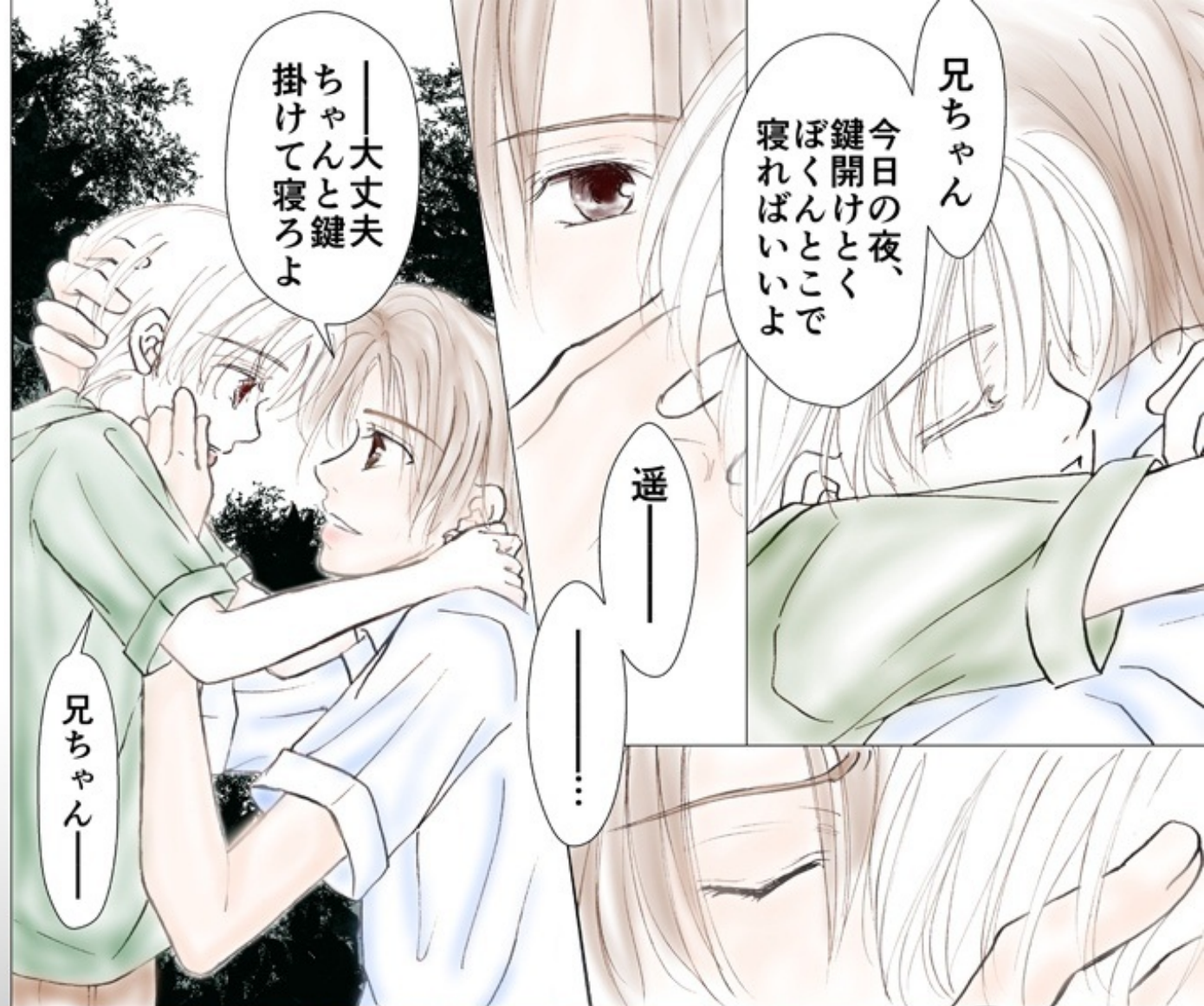
ん、



でも、  
こんなところで  
寝入るなんてな

全く、神経  
イカレてる





兄ちゃん

今日の夜、  
鍵開けとく  
ぼくんとこで  
寝ればいいよ

——大丈夫  
ちゃんと鍵  
掛けて寝ろよ

遥——

……

兄ちゃん——



明日——  
あいつが  
出たら

お前んとこで  
寝かせて

うん……



ガッ  
ドボン

NITOH



ドタム

おかえりなさい  
父さん

白子は？

まだ  
生きてんのか？

遥なら  
寝ました

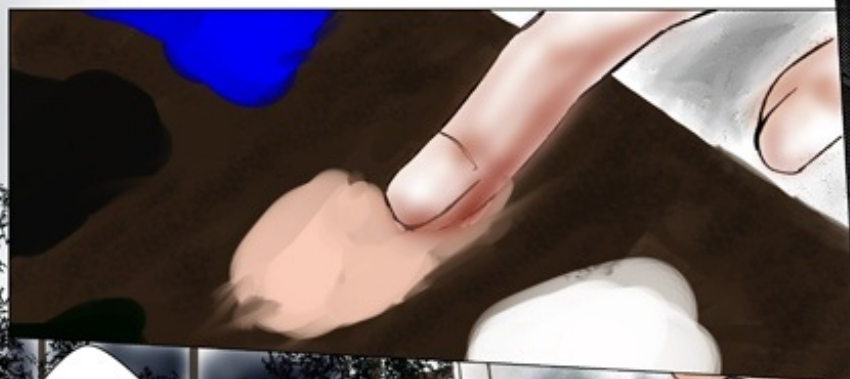
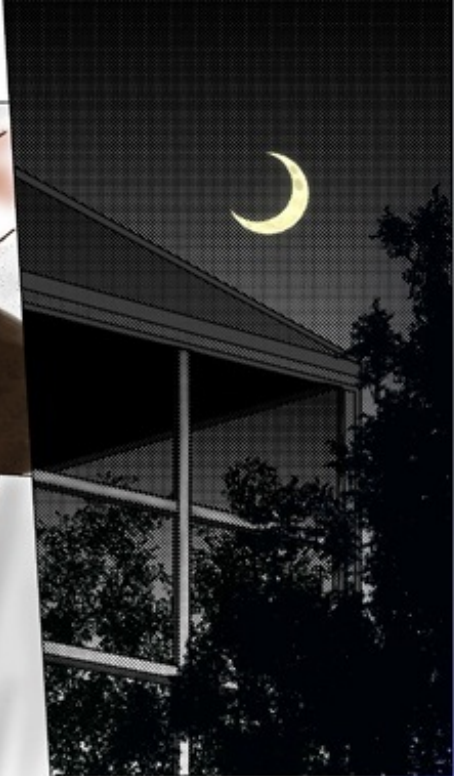
ああ、変わり  
なさそうだな

——いい  
返事だな

彼方、  
温室行ってる

今夜は  
描くぞ





あとひと月で  
十四



お前、いくつにな  
った？



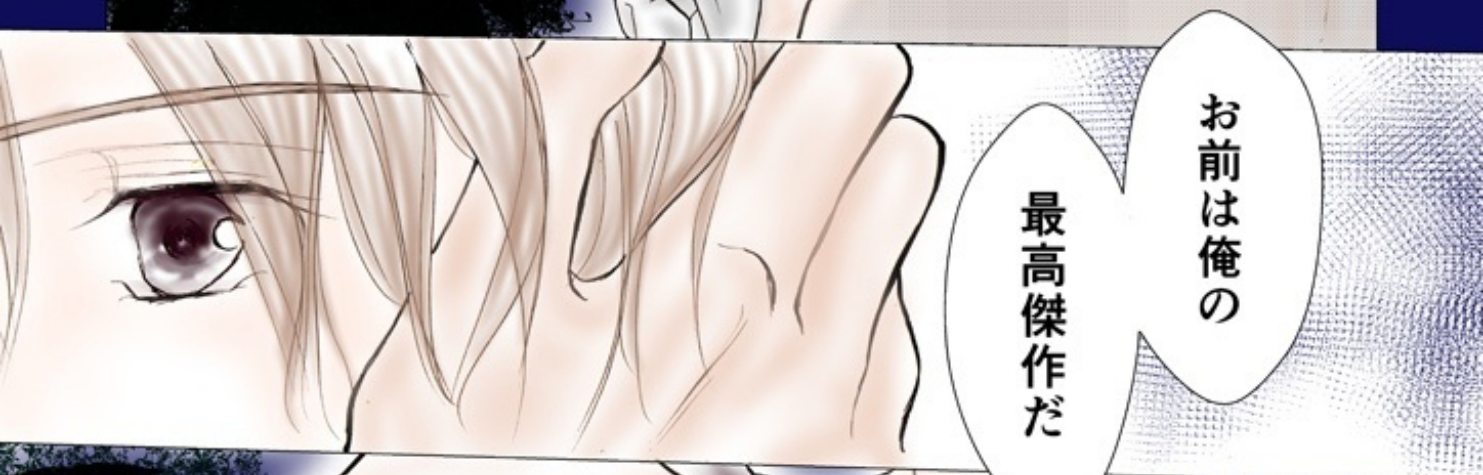
あと、2、3年が  
一番いい時期だ



そうか、お前の  
母親がお前を  
産んだ歳だな











！  
ズンッ



この体を  
好きにしていいのは  
俺だけなんだからな

いぞ  
彼方ぞ  
そうやって  
誰にも  
触らせるな



勘違いするなよ  
これはお前の  
体じゃないんだ  
俺が作ったんだ

いいな、  
傷ひとつ  
つけるとつ  
いぞ



お前はたまたま  
そこに宿った  
だけの魂

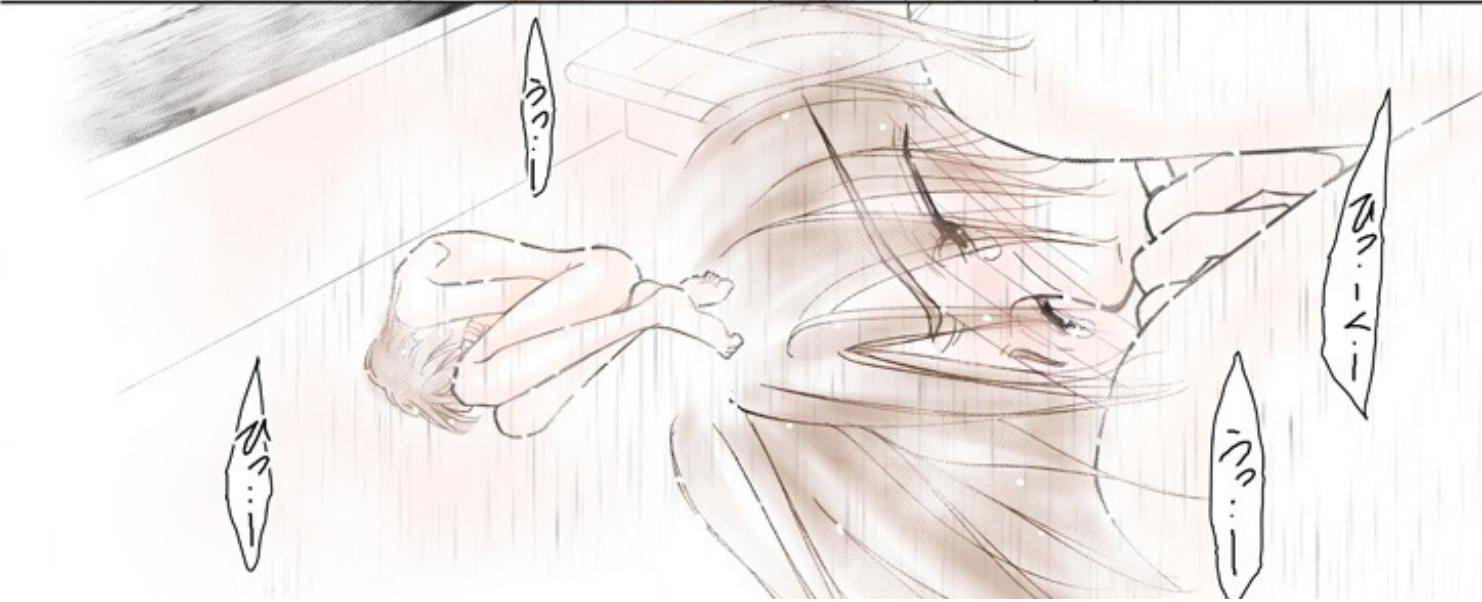
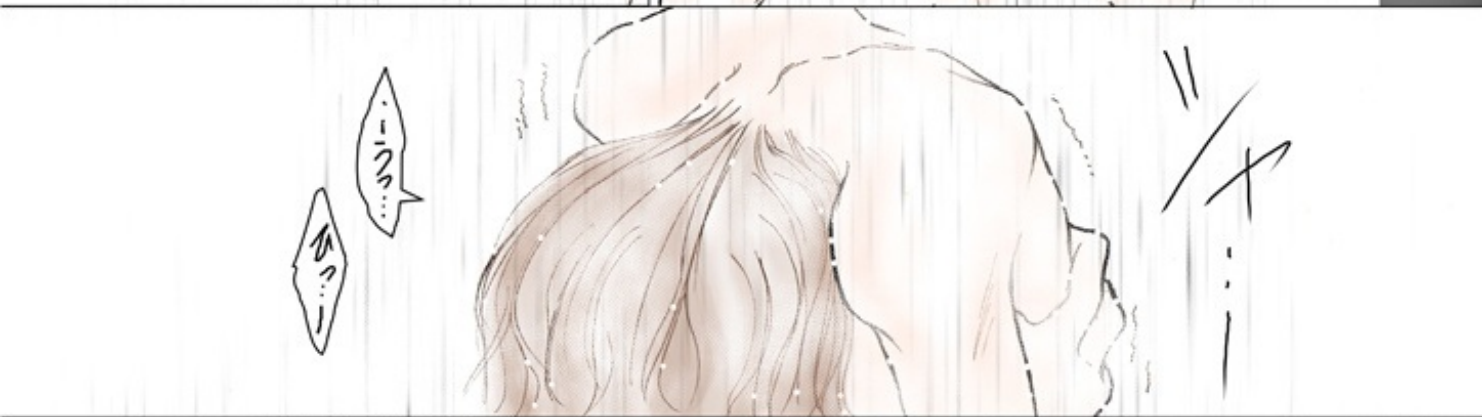
お前の意識は  
この体を守るため  
だけに存在する

少しでも勝手に  
傷つけたり  
他の人間に  
触らせる事が  
あれば

お前の飼ってる  
突然変異の欠陥品を  
半殺しにしてやる

ズンッ







ガキヤツ

アハハ



バタニ

アハハ

ズー

かみさま

お願いです

母さん

あとどれだけ我慢すれば

事故でも  
何でも  
誰でもいいから

何でも  
早いから  
早く父親が死んで  
くれますように

かみさまは  
救ってくれる

?

早くあいつを  
殺してくれよ……

早く……





遙

コンコン

開いてる

カチャ

いい知らせだぞ  
あいつ、ニューヨーク  
行ったから2週間は  
帰ってこない

じゃ、  
兄ちゃんも  
ゆっくり  
寝られるね

ズ  
ズ  
ズ

…遙

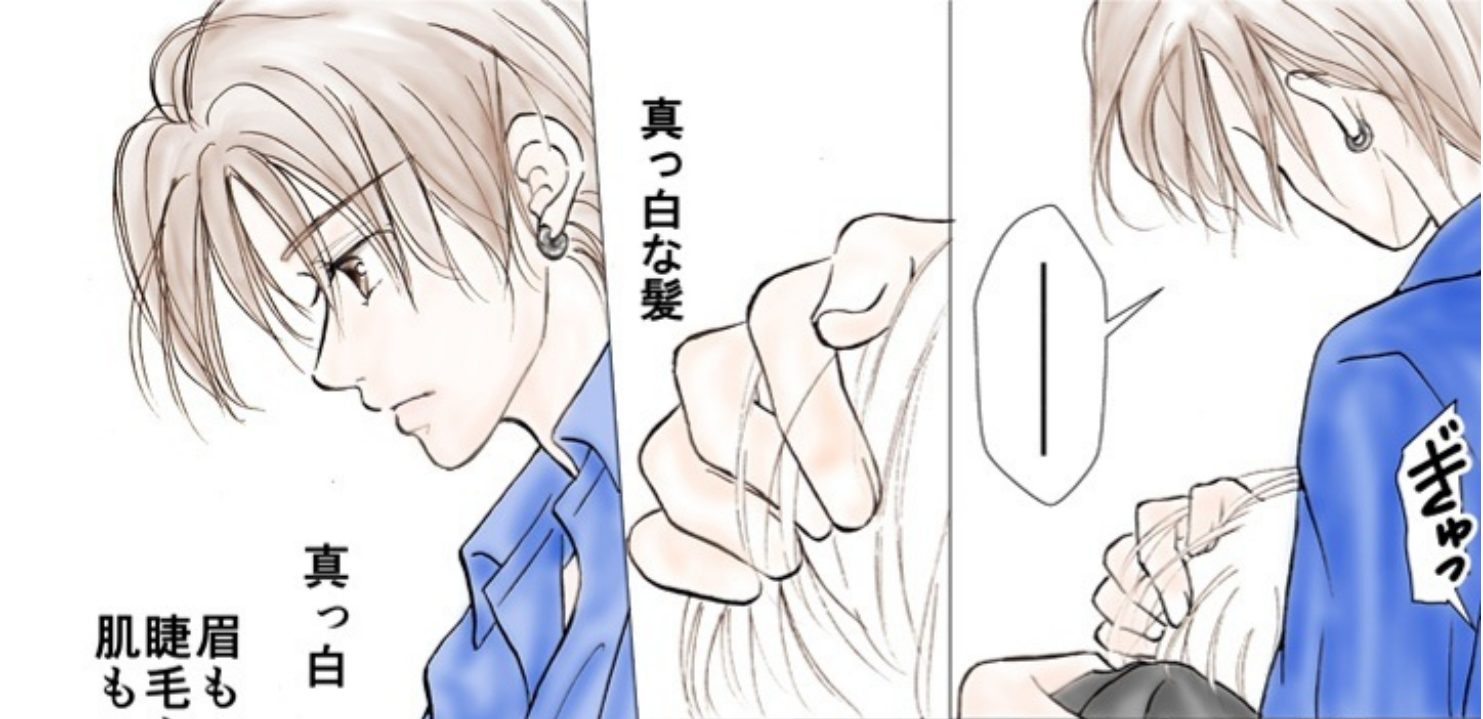
ぽすっ

ああ、でも  
お前んとこに  
寝に来たんだ

ベッド貸して

うん





真っ白な髪

真っ白

肌睫毛も  
眉も



瞳と唇だけが  
紅い

兄ちゃん

アルビノ——



お前も  
一緒に  
寝るか?

ふ、あ——

……うん——

——遙、





ごめんね、彼方

もう  
守ってあげられない…

ごめんね…

彼方

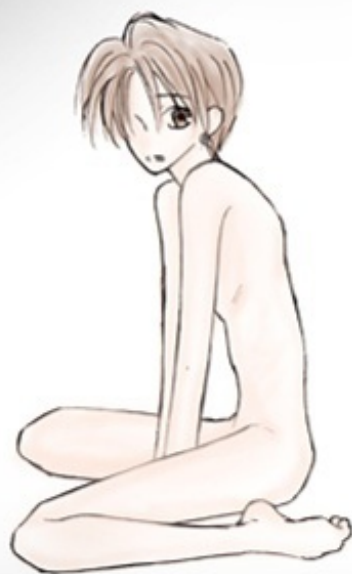
彼方

母さん



どうか  
あなたと…  
遥に

神の  
ご加護を





彼方

！

やっ……

死のうなんて  
思うなよ

この体に  
傷ひとつ  
つけてみる

やめ……  
やあああ

お前の弟が――

……遥

いやだっ  
いや……

知るかよ  
何で俺ばっかり



なんで……

あんなこと……

されなきゃ……

さっか……

**バツバツ**

あれ程言っただろ  
人のモノに傷を  
つけるなと

どうした？彼方  
もっとやって欲しいか

ほっ  
ほっ

！

**バツバツ**

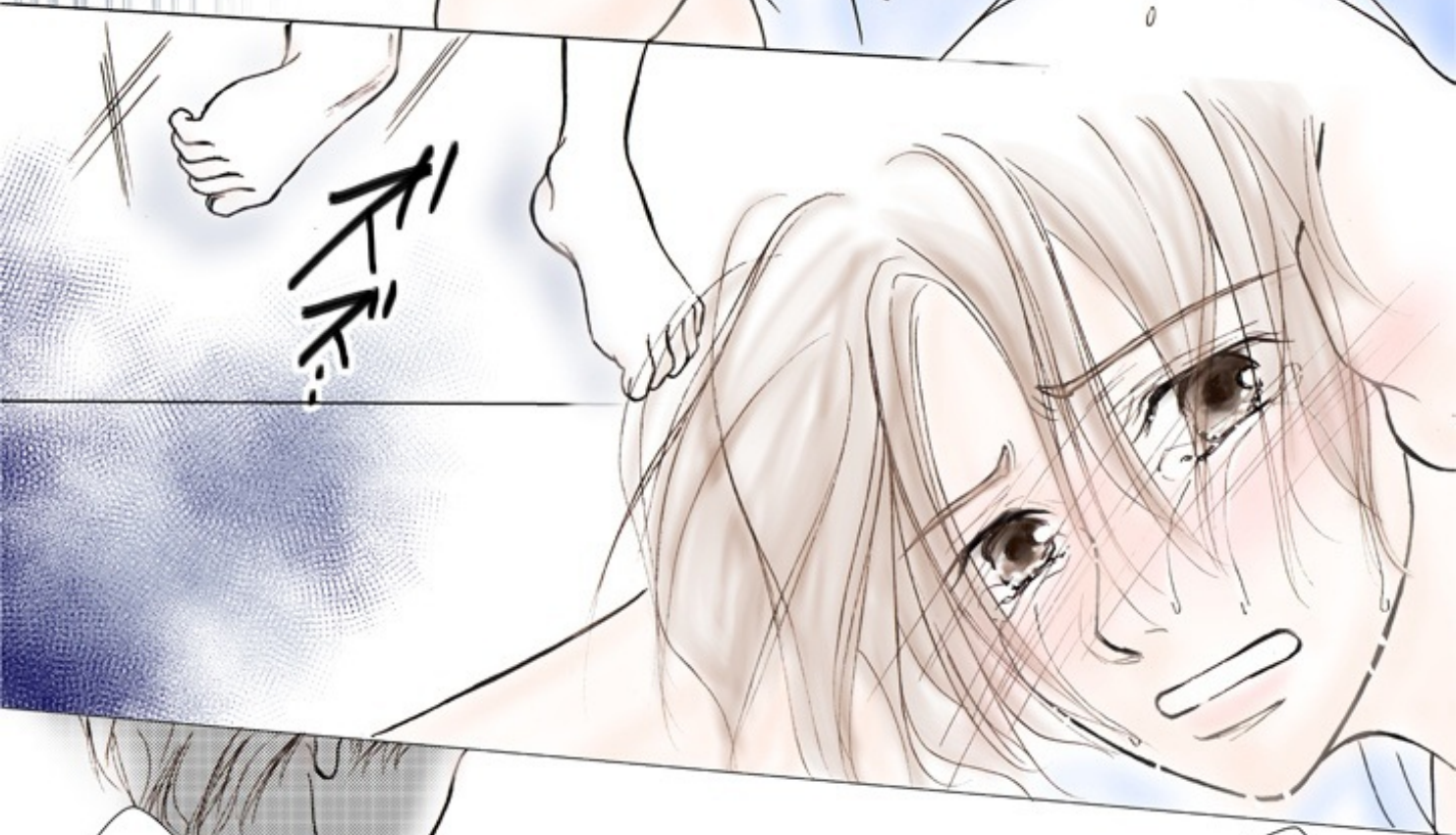




セーラー

嫌な  
あ  
あ

遥——



ズ  
ズ



兄ちゃん

ズ  
ズ



遥——





俺のせいだ…

うそだ

ほんととは思  
ってるくせに  
俺のせいだつて

遥

違うよ  
兄ちゃんは  
悪くない

俺のせいだ

違うよ



遥

俺は悪くないのに  
何もしてないのに

ただ

死のうと  
しただけ…

遥がいるから  
俺は死ねない

遥がいるから  
自分を傷つける  
ことも出来ない

兄ちゃん？



あいつ  
父親を

殺すことも  
できない

アルビノで  
対人恐怖症で

兄……ちや

こいつは  
俺がいないと

生きて  
いけないから

いい……よ  
殺……して……

早く

早く  
殺さなきゃ

苦しまない  
ように早く  
早く楽に  
してやらなきゃ





はあ  
はあ  
はあ

早く——  
ガッ



——遥？

はあ  
はあ



遥——

うそだよ  
遥

——うそだよ

お前が  
いなければなんて

遥——？





ヤダよ……

独りにするなよ

きれいなえ……

ほんと きれいだ

遥……

遥あ……

造りものみたい

本当に絵からい  
抜け出たようだわ

いやあ  
武藤さんが執着するの  
よくわかるね

何……  
ふざけたこと  
言ってる……

実技で躰に  
傷がつくからって  
学校に行かせない  
らしいよ

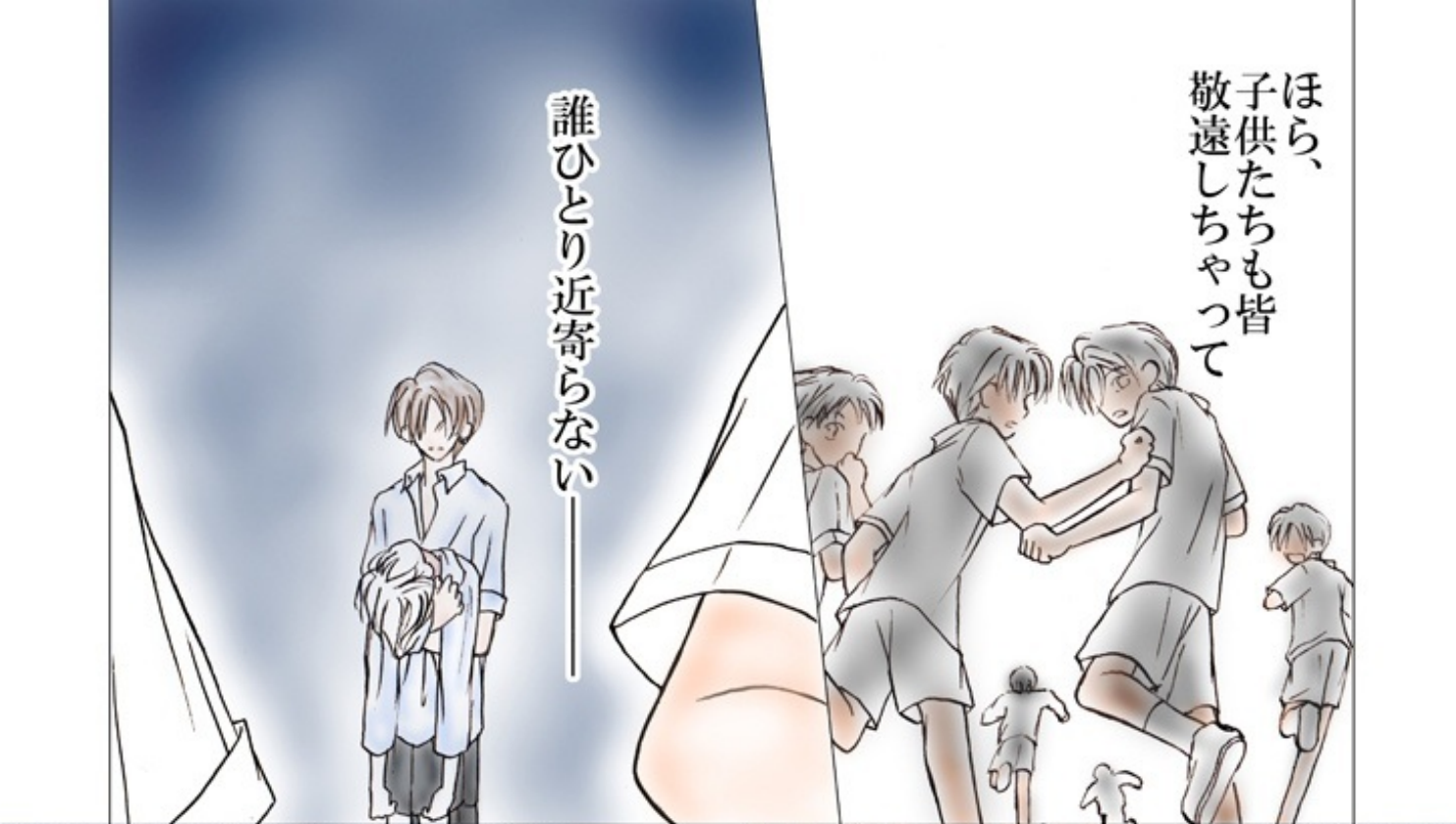
まあ、天才と言われる  
だけあって少々異常  
だからねえあの人も

家密室で何があったって  
わかりやしないって



ほら、  
子供たちも皆  
敬遠しちゃって

誰ひとり近寄らない



早く——

病院連れて  
かなきゃ

武藤！

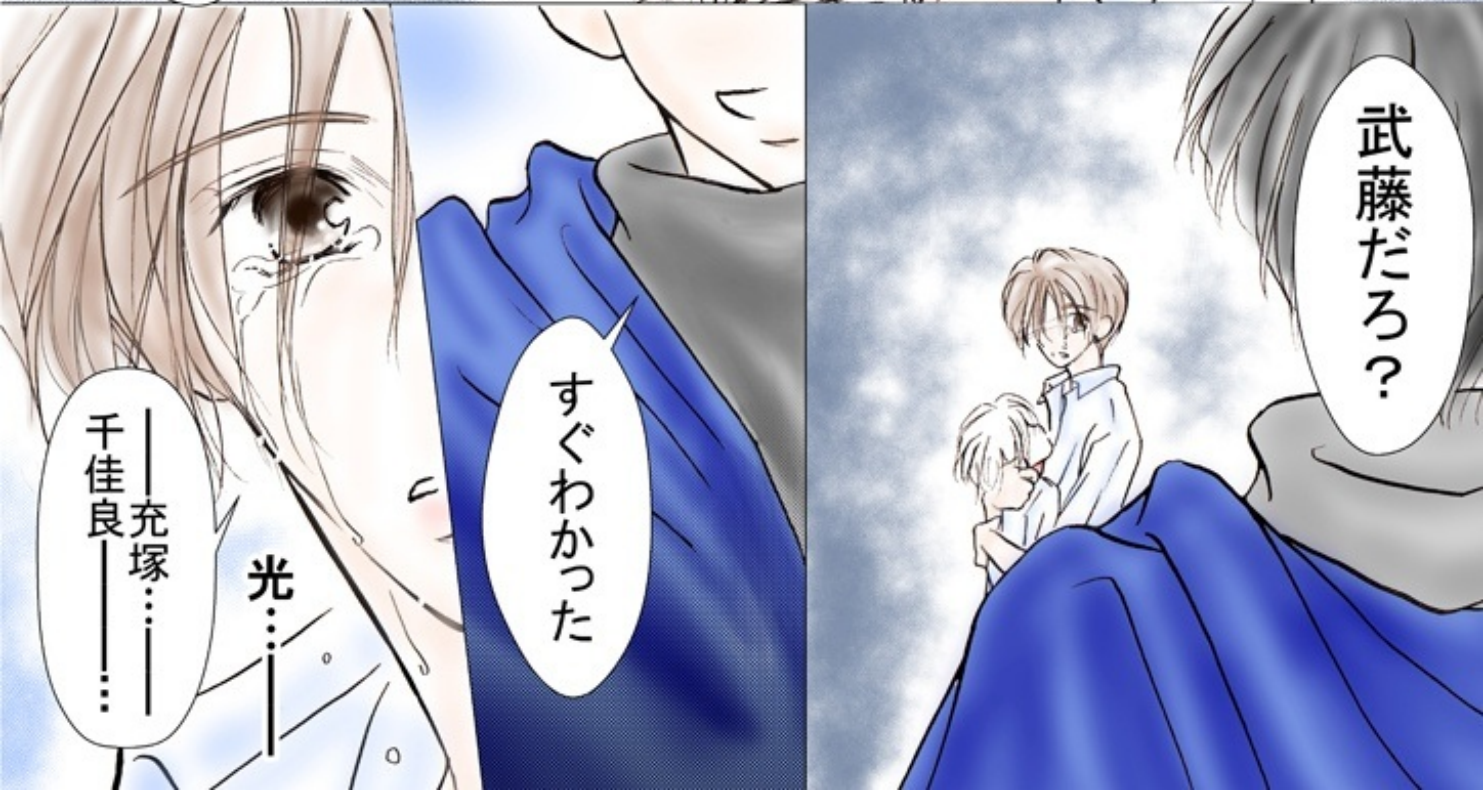


武藤だろ？

すぐわかった

——充塚……  
千佳良……

光……



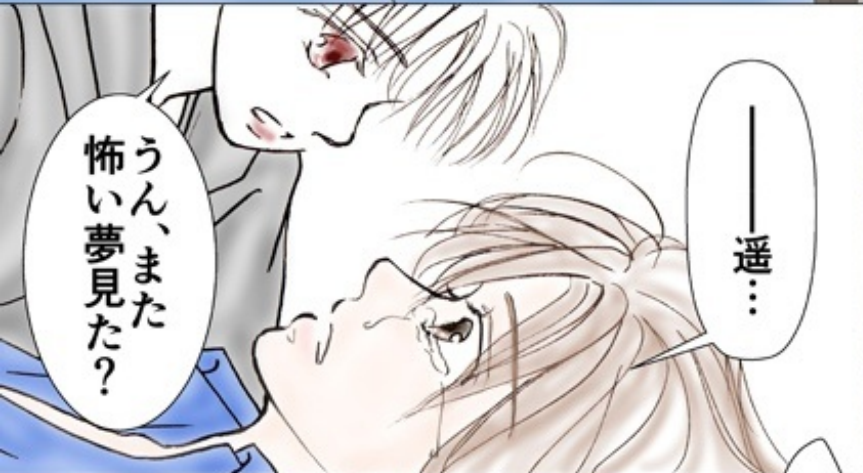




ふい  
め！

—兄ちゃん、

大丈夫？



—遙…

うん、また  
怖い夢見た？



—ん…  
でも

救われた



暖かい…

やっと会えた

俺、ずっとお前に  
会いたかったんだ  
武藤、

光

兄ちゃん



今でも

はっきり

覚えてる



何度願っても  
救ってくれない  
かみさまなんかより

たった数分の  
あの時の  
記憶が

思い出す度  
いつも

俺を

救って  
くれていた





長いので一旦  
区切ります。続き  
#3はVOL. 2で…







vol.2へまだまだ続きます((+\_+))

## かみさま

<http://p.booklog.jp/book/80233>

著者：葵生蒼空

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/shirotuki12/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/80233>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/80233>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ